

第 1 1 次水道事業経営審議会の審議状況等一覧 No. 1

開催	出席委員	主な議題	概要・意見
第 1 回 平成28年7月7日 (2016年)	1 4 名	(1)委嘱状交付 (2)正副会長選出 (3)経営審議会の運営と審議予定について (4)水道事業の概要について など	(概要) 市から審議会の概要や今後の審議予定について説明。
第 2 回 平成28年9月23日 (2016年)	1 3 名	第 1 部 マスタープランにおける泉浄水所と千里浄水池の位置づけ 第 2 部 施設見学 (泉浄水所、千里浄水池 (企業団)、片山浄水所)	(概要) 吹田市水道施設マスタープランに基づいた泉浄水所と大阪広域水道企業団 (以下、企業団) 千里浄水池の位置づけや今後の方針、平成28年度から着手する 2 大工事の概要等についての説明・質疑応答、泉浄水所、千里浄水池の視察など。 (意見) ・片山浄水所の地下水取水については、水脈調査をしたうえで井戸を設置し適正な水量を使用するため地盤沈下等の影響はないとわかり安心した。 ・淀川を水源とした水の処理については、スケールメリットをいかして将来的には企業団からの依存水に切り替える方法も考えられることがわかった。
第 3 回 平成28年11月16日 (2016年)	1 1 名	(1)吹田市水道事業の現状と課題 (2)平成27年度 (2015年度) 決算について など	(概要) 公営企業会計の仕組みや吹田市水道事業の主な経営課題と取組についての説明・質疑応答、経営レポートによる平成27年度の決算状況や施策・事業についての説明など。 (意見) ・水道事業の現状を、市民にもっと身近な問題と認識してもらえるような働きかけが必要。 ・経年管の解消について、料金改定による資金確保だけではなく抜本的な対策が必要。 ・地下水利用者に対し、水道水をもっと使用してもらおう働きかける必要がある。
第 4 回 平成29年3月17日 (2017年)	1 1 名	吹田の未来の暮らしと水道を考える (ワークショップ形式でのフューチャーデザインの取組)	(概要) 現在の視点で考える現世代グループと2060年代の人間の視点で考える仮想将来世代グループに分かれワークショップ形式でのフューチャーデザイン テーマ ①2060年の人々の暮らしのありようと水道の関わり方 ②2060年の吹田の水道ビジョン・施策 (意見) 現世代グループ ・2060年はさらに節水が進み、技術の進歩により用途別の水の供給が可能。 ・浄化システム技術の進歩への対応、I T 化やA I 化等を推進する取組が必要。 など 仮想将来世代グループ ・人口減少が進み、生産者不足による食糧の減少、水道使用者の減少が起きている。 ・持続可能な水道施設の更新、災害対策の推進が必要。 ・必要に応じた料金値上げなど適正な水道料金の設定が必要。 など

第 1 1 次水道事業経営審議会の審議状況等一覧 No. 2

開催	出席委員	主な議題	概要・意見
<p>第 5 回 平成29年7月7日 (2017年)</p>	<p>1 2 名</p>	<p>(1) (仮称) 新すいすいビジョンの策定について (2) これからの水道事業の経営形態について</p>	<p>(概要) <ul style="list-style-type: none"> 本市水道事業の基本計画であるすいすいビジョン2020の位置づけと新たな計画の策定についての説明。 水道事業を取巻く状況や公営企業で行う意義、他企業で用いられている経営形態に関する意見交換。 (意見) <ul style="list-style-type: none"> 水需要の増加が見込めない現状の中で、通増制の料金体系については検討する必要がある。 吹田の状況を考えて、府域一水道による事業統合は、将来的にはありうるが長い年数をかけた検討が必要である。 民間活力の導入が言われているが、公営企業としての強みを活かしながら吹田独自の取組を進め、市民に歓迎される水道となるような方向性が必要。 水道事業の現状や取組が市民にあまり理解されていない。市民理解が得られるようにもっとPRが必要。 外国では民営化によるサービス悪化で市民の不満が高まったケースがある。ただ効率化のみを考えるのではなく本当に市民が求めるところはサービスの充実ではないか。 </p>
<p>第 6 回 平成29年9月5日 (2017年)</p>	<p>1 2 名</p>	<p>(1) 諮問 吹田市水道事業の新たな基本計画について</p>	<p>(概要) <ul style="list-style-type: none"> 本市水道事業の新たな基本計画の策定に関する諮問の主旨や概要の説明 現行の基本計画であるすいすいビジョン2020の取組状況等 (意見) <ul style="list-style-type: none"> 「安定・安心・安全・安価」の4つは従来からの基本的な理念と言えるため、この部分は引き続き変わらないのではないかと。 基本計画には、広域連携に関する考え方や吹田市の水道事業の方向性の両方が必要。 様々な管理指標から管路の更新は平均以上に取組んでいるにも関わらず、非常に経年化率が高く、間に合っていないことがわかる。 </p>
<p>第 7 回 平成29年11月17日 (2017年)</p>	<p>1 3 名</p>	<p>(1) 諮問 吹田市水道事業の新たな基本計画について 「安全で強靱な水道水の供給を目指す施設整備」</p>	<p>(概要) <ul style="list-style-type: none"> 吹田市水道施設マスタープランに基づいた片山浄水所を中心とした施設整備や、効果的で効率的な施設・管路の更新・耐震化の考え方について説明 危機管理の更なる向上を図る防災施策の方向性等について説明 (意見) <ul style="list-style-type: none"> 水道施設の更新には耐震化の必要性も考慮し効率的かつ効果的に進めることも重要である。 アセットマネジメントやストックマネジメントの知見を有効に活用しながら、更新時期を迎えた場合には着実に更新すべき。 近い将来予測される大地震の発生に備え、水道施設の耐震化を図り、断水を最小限に留める努力が必要である。 </p>

第 1 1 次水道事業経営審議会の審議状況等一覧 No. 3

<p>第 8 回 平成30年1月23日 (2018年)</p>	<p>8 名</p>	<p>(1) 諮問 吹田市水道事業の新たな基本計画について 「吹田の特性を活かす事業運営」</p>	<p>(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・吹田らしさを活かした「地域の水道」のあり方について説明 ・将来世代を見据えた事業のあり方について説明 ・「公営企業の責任」の観点からの直営と委託の考え方について説明 ・府域一水道と広域連携の考え方について説明 <p>(意見) <ul style="list-style-type: none"> ・「地下水」は、文化的な観点だけでなく水源の多様性の観点からも非常に重要な吹田の特徴の一つと言える。 ・安全な水を供給し続けるためには多大な投資が必要であり、市民理解を得るために広報・PRは重要。内容の充実に努めるべき。 ・公営企業として公的な部分の責任は堅持しつつ、民間のノウハウの活用も積極的に検討していく必要がある。 </p> </p>
<p>第 9 回 平成30年3月27日 (2018年)</p>	<p>1 2 名</p>	<p>(1) 諮問 吹田市水道事業の新たな基本計画について 「持続可能な水道事業経営」 (2) 水道いどばた会議の実施について</p>	<p>(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・水道料金のしくみや本市の特徴、料金改定の実施状況等の説明 ・財政計画シミュレーションに基づく財政規律の考え方について説明 ・現在の評価手法とその課題について説明 ・地下水利用専用水道設置者への対応について説明など <p>(意見) <ul style="list-style-type: none"> ・客観的なデータを活用して水道水の安全性や高品質をPRするなど企業としてより一層の企業性を発揮すべき。 ・料金収入と企業債のバランスについて明確な基準がないため、バランスが良いところを選ぶのは賢い選択の一つといえる。 ・事業の進捗等をわかりやすい形で公表することで多くの市民による経営状況の確認につながる。 ・企業等の地下水利用により地盤沈下等が懸念されるほか、給水収益の減少にもつながっており、負担金制度など何らかの対応が必要。 </p> </p>
<p>第10回 平成30年4月24日 (2018年)</p>	<p>1 0 名</p>	<p>(1) 諮問 吹田市水道事業の新たな基本計画について これまでの審議のまとめ 水道事業に関する市民アンケート調査の結果について</p>	<p>(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・諮問「吹田市水道事業の新たな基本計画について」に関するこれまでの審議における意見の集約と答申に向けたポイントの抽出 ・水道事業に関する市民アンケート調査の結果報告 <p>(意見) <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果から、水道事業に関してあまり知られていないものは引き続き広報・PRに努めていく必要がある。 ・様々な課題がある中で財源確保の必要性は十分理解できるが、一方で水道料金の値上げが生活への負担につながることへの配慮が必要である。 ・給水の安定確保には、水道施設の更新・耐震化に加えて水源の確保の観点も必要である。 </p> </p>
<p>第11回 平成30年5月25日 (2018年)</p>	<p>1 1 名</p>	<p>(1) 諮問「吹田市水道事業の新たな基本計画について」への答申 (2) 第11次水道事業経営審議会の審議を振り返って</p>	<p>(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・諮問「吹田市水道事業の新たな基本計画について」に対する答申 ・2年間の審議を振り返っての感想 <p>(意見) <ul style="list-style-type: none"> ・本審議会において、将来世代の視点からの水道のあり方を議論したことやフューチャー・デザインという考え方が柱の一つに入ったことには大きな意味がある。 ・水道事業について新たに知ったことを地域で話すことで少しでも水道への理解につながればと考えている。 ・生活者としての立場から意見を出してきたので、これからは生活者の意見が反映されることを願っている。 </p> </p>